

伊予三島ロータリークラブ

2015-2016 WEEKLY

伊予三島RC30周年記念 時計塔
伊予三島運動公園「産土の塔」

世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world

事務局　四国中央市金生町下分８６５　　四国中央商工会議所内
http: // www.iyomishima-rc.jp　　ＴＥＬ(0896) 58－3530
E-mail:iyomis@iyomishima-rc.jp　　ＦＡＸ(0896) 58－6294
例　会　金曜日　12：10 ～ 13：10
■会長／中野　哲　■幹事／山内一正　■広報委員長／園部忠幸

2015～2016年度国際ロータリー会長

No.３１
平成 28.1.29
第２９７１回

広 報 委 員 会
ＣＳＲ（社会的責任）について



広報委員　香　川　俊　二

地方では今後、人口の減少と地域経済縮小の進展が懸念されています。政府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の閣議決定を受けて、各地方自治体は「地方版総合戦略」を策定することになるなど、地方の活性化に向けた動きが活発化してきました。

「地方版総合戦略」では、その策定から実行検証まで各段階で金融機関が積極的に係わつていくことが期待されており、まさに地方銀行においてはＣＳＲ（社会的責任）へのさらなる取り組みが求められております。

また、個人についても地域社会活性化や住みやすい社会造りにかかわることは社会人としての責務であり、居住地や職場などでこのような取り組みが今まで以上に期待されています。

企業がそれぞれの事業活動を通じて社会的責任を果たすことと、個人が社会の一員として積極的に地域のために行動することは、地方創生のために取組むべき活動の両輪と言えます。

＜ＣＳＲとは＞

「ＣＳＲ」とは事業活動の中で相互に影響のある様々な利害関係者（ステークホルダー）からの期待や要請に応えるため、自らの社会的責任を認識し、事業活動を通じて環境問題や社会問題を解決するなど、社会と企業の持続可能な発展を目指す自主的な取り組みのことです。

＜ＣＳＲへの関心が高まった背景＞

・頻繁に起こる企業の不祥事…企業倫理への関心の高まり
・企業活動の拡大とグローバル化
　…国際世論の高まり、多様なステークホルダーの発言力
・規制緩和の進展
　…公的サービスの民営化、経営の裁量権限の拡大、自己責任の拡大
・環境問題の深刻化…公害、地球温暖化、生態系破壊
・消費者・市民意識の変化…市民団体の活動活発化、監視、告発

企業も社会の一員であり、企業と社会の持続的な発展につながる社会的に責任のある行動を求める動きが活発化してきたことが上記の背景にあります。そして企業は従来の存続と発展、利潤追求を目的とする経営から、社会全体について幅広い視点を持ち、その変化に対応した経営を行う姿勢が求められるようになりました。

日本ではまだ「ボランティア」や「寄付活動」「法令遵守」「環境保護」といったイメージが強く、「ＣＳＲ＝社会貢献」と認識されることが多いですが、ＣＳＲとは企業活動そのものなのです。

チャールズ・Ｒ・ダーウィンの語録に「生き残るのは最強の種ではない。最も高い知能を有している種でもない。最も敏感に変化に反応する種である」という有名なことばがあります。従来の考え方にとらわれず事業にＣＳＲの考えを組み込み、ＣＳＲをコストとしてだけではなく、将来に向けた投資、収益を生み出す機会として、戦略的に実践することが企業と社会の持続的発展につながるのではないでしょうか。

第２９７１回　　例　　会　　記　　録　　平成２８年１月２９日

開会　中野　哲　会長

来訪ロータリアン紹介
（川之江）石村　浩氏

出席報告
出席会員（３８名中）　２８名
出席率　８２．３５％
第２９７０回修正出席率　９７．３７％

会長の時間
○定例理事会
・下期親睦家族会について　承認
（例年通り開催！多数のご参加を！）
・第２・４半期会計報告について　承認
・２月度プログラムについて　承認
2/ 5　会員増強委員会
2/12　国際奉仕委員会
2/19　ＩＭ報告
2/26　会長の時間(ロータリー創立記念日に因んで)、定例理事会

幹事報告
・国際ロータリー～ 2016 － 2017 年度
国際ロータリー・テーマご報告
『人類の奉仕するロータリー
(ROTARY SERVING HUMANITY)』
・四国中央市国際交流協会～会報誌２．３月号

例会行事
広報委員会
香川俊二　委員

２月 12 日プログラム予定

国 際 奉 仕 委 員 会